

I 総括的概要

2024（令和6）年度の日本経済は、日経平均株価が史上最高値を更新し、公示地価上昇や賃上げ率が5%を超えてバブル期以来の伸びを記録するなど、デフレ脱却に向けた着実な歩みが見られました。一方で、米ドルと円の為替相場は140円台から160円台で推移し、円安に明確な歯止めが掛かることはなく、2024年12月の消費者物価指数が前年比で3%台に乗るなど、国際的な原材料高と輸入コスト増による物価高騰が今も続いています。

また、米国「トランプ関税」政策で米国やグローバル経済の減速感も完全には払拭されておらず、自動車産業はじめ大手企業の業績への悪影響も懸念され、関税・為替・物価などによる社会・経済への影響は依然、不透明で今後も予断を許さない状況です。

地域・社会に目を移しますと、2024（令和6）年は「宝塚市制70周年」の記念すべき年でした。当所も宝塚市から「花のみち周辺にぎわい創出事業」を受託し、8月にダリアのブーケを並べた「ギネス世界記録に挑戦するイベント」と同時開催した「ダリア宝塚スタンプラリー」を皮切りに、9月の「豊岡演劇祭 2024in 宝塚」時には豊岡商工会議所と連携し「豊岡マルシェ」を開催しました。10月は今や恒例行事となった武庫川河川敷の「空飛ぶ宝塚ランタン」で、「宝塚キャンドルナイト with 宝塚ランタン」、また10月から翌年1月まで宝塚市文化財団と合同で「宝塚出身のイラストレーター中村佑介スタンプラリー」を実施しました。今年3月には女性会を中心に、国際女性デーin宝塚「キラキラマルシェ&音楽ステージ」を開催するなど、一年を通して花のみち周辺で多様な集客イベントが連続的に開催され、まちの新たな魅力創出や、賑わいづくりに大きく貢献することが出来ましたことに、改めて感謝致します。

また当所の活動としては、「現場主義と双方向対話」を率先垂範するため、会頭が市内企業8社を訪問し地域課題や会議所活動について意見交換や課題をヒアリングし、市政要望書等に反映しました。さらに、未来社会の担い手である地元高校生と対話するため、県立宝塚高校で「総合的な探究の時間『宝塚学』」の特別講義や意見交換会を実施しました。市民との触れ合いを深めるため、「宝塚学検定セミナー」で「宝塚のまちとモノづくり」と題した基調講演やパネル・ディスカッション、連合兵庫東部地域協議会主催による「地域活性化プログラム in 宝塚」に市長らと共に会頭がパネリストとして登壇しました。

さらに今年2月には、市や国際観光協会と共に東京の「株式会社手塚プロダクション」を表敬訪問し、手塚作品を用いた誘客やまちの活性化策を協業して進めることを双方で確認しました。商工会議所を代表し会頭自ら精力的に動くことで、まちの振興や活性化に向けた活動基盤が構築でき、今後は会員増強や地域・社会の持続的発展などの実成果に結び付けて行きたいと思います。

このほか、Instagramによる積極的な情報発信や「宝塚歌劇特別観劇会」「ひょうご産業SDGs推進宣言・認証事業の普及・啓発」、新入会員・非会員を主な対象とした「会議所活用説明会」の開催など多種多彩な事業活動を行っています。

2024年度事業活動の詳細については、以下の通り報告します。